

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 東京天文台 100 周年記念誌資料ーその 3-40ー (東京天文台パンフレット 1973 年版)**

筆者が引き継いだ東京天文台百年記念誌資料については、アーカイブ室新聞 346 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 1ー」、349 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 2ー」、353 号に「東京天文台 100 周年記念誌作成時の資料ーその 3ー」、という記事を書いた。これらの資料は段ボール箱 3 個に入っていたので 1 箱目をーその 1ー、2 箱目をーその 2ー、3 箱目をーその 3ーとしたのである。これらの資料についてリストのみでなく、内容を具体的に紹介する記事を書き始めたが、順不同で筆者が興味深いものかかってにピックアップして書いている。今回は 3 箱目の 40 項目について報告したい。第 353 号のリストには、

40. 1973 年版東京天文台パンフレット 1 冊

とある。これまでアーカイブ新聞に東京天文台パンフレットを収蔵した際には記事にしてきた。1973 年は昭和 48 年である。

写真 1 が、パンフレットの表紙、写真 2 が裏表紙である。

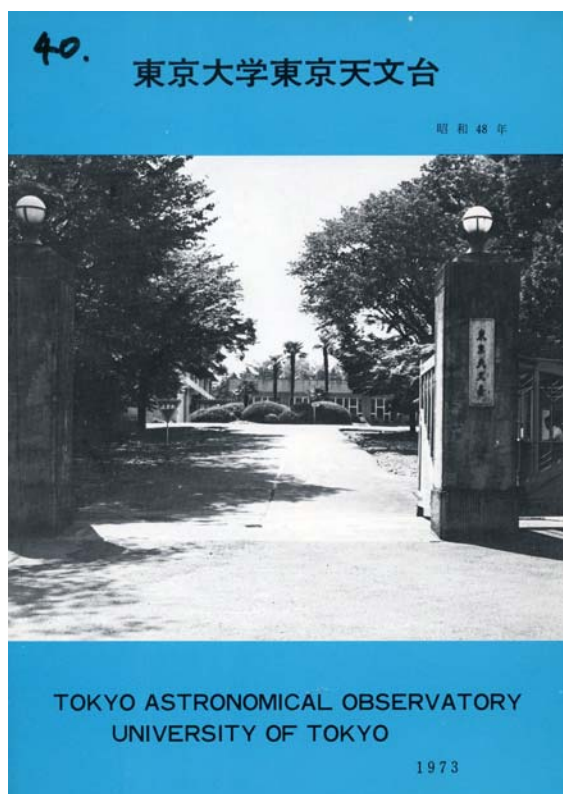


写真 1

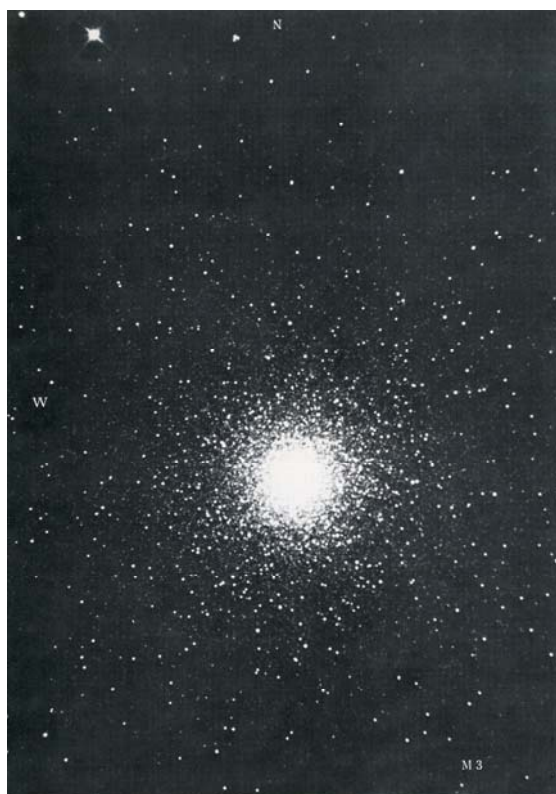


写真 2

表紙は東京天文台正門、裏表紙は岡山天体物理観測所 188 cm望遠鏡ニュートン焦点で撮影された球状星団 M3 である。

パンフレットは表紙をめくると、表紙、裏表紙から折り込まれた見開きのページがあり、左ページに三鷹構内の施設配置図（写真 3）、右ページに日本国内の施設の配置図（写真 4）になっている。1973 年には、三鷹の本部の他に観測所が国内の 5 か所に点在していた。

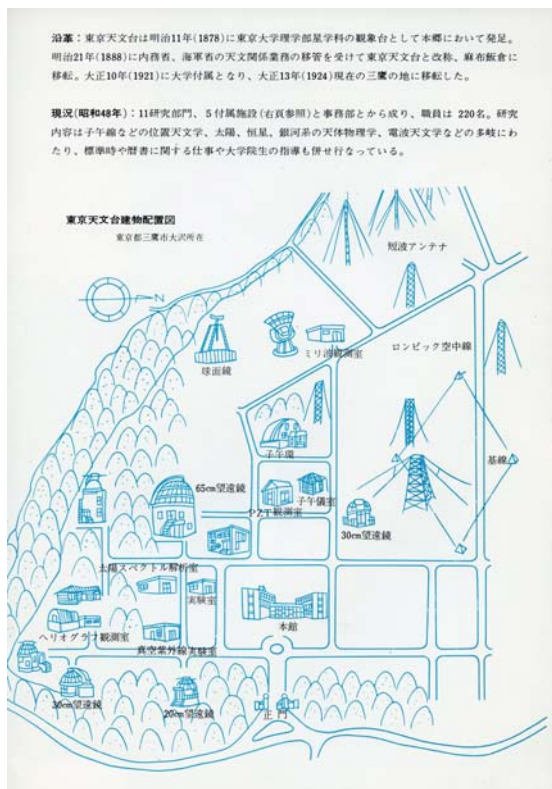


写真 3



写真 4

織り込まれた配置図をさらに左右に開くと A4 版 4 ページ分に設備の紹介写真が 11 枚紹



写真 5

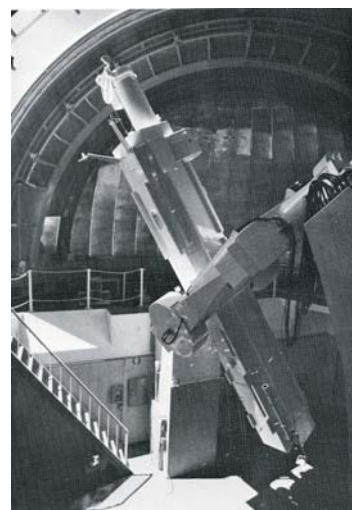


写真 6

介されている。写真 5 は乗鞍コロナ観測所、写真 6 は乗鞍コロナ観測所の 25 cmクーデ型コロナグラフである。

岡山天体物理観測所は 188 cm望遠鏡（写真 7）である。



写真 7

続いて、野辺山太陽電波観測所の太陽電波干渉計（写真 8）、堂平観測所の 91 cm望遠鏡（写真 9）が紹介されている。

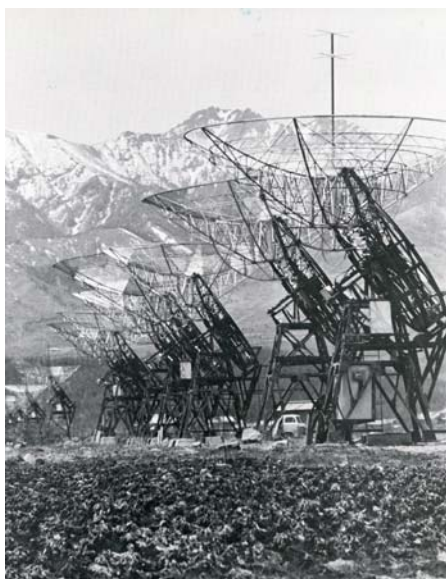


写真 8

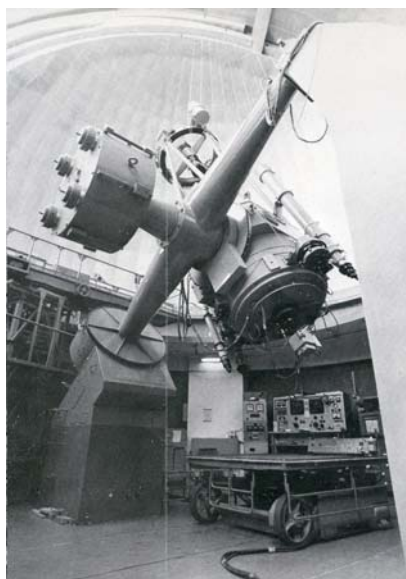


写真 9

三鷹キャンパスでは、65 cm望遠鏡（写真 10）、ゴーチェ子午環（写真 11）、天文時部研究室（写真 12）、真空分光実験室（写真 13）、6m ミリ波望遠鏡（写真 14）が紹介されている。



写真 10

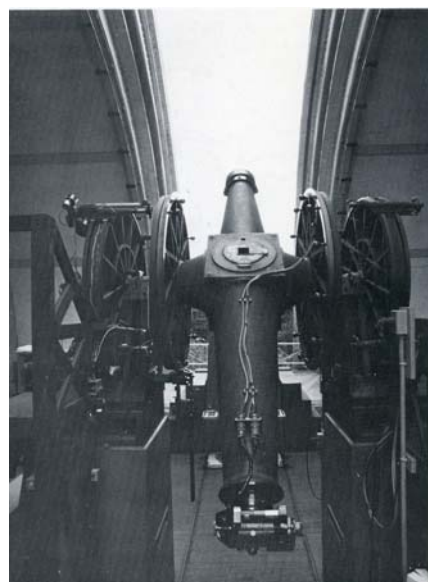


写真 11



写真 12



写真 13



写真 14

当時建設中であった基礎観測所の 105 cm シュミット望遠鏡の写真が日本光学の工場で仮組の状態で紹介されている（写真 15）。

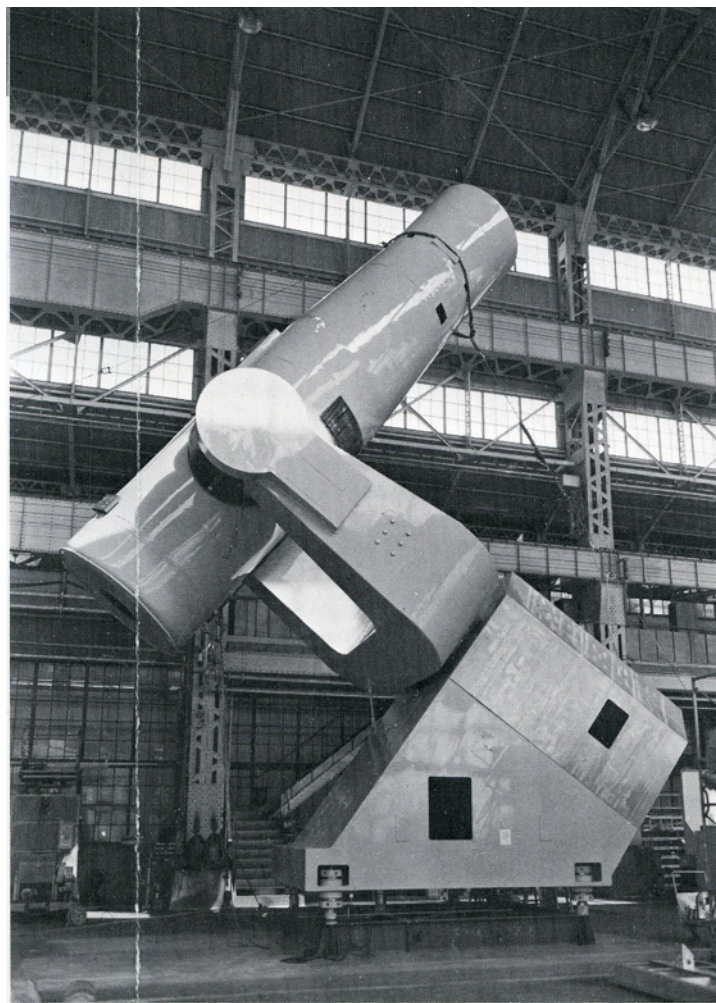


写真 15

このように、その時その時の東京天文台のパンフレットを見ると、当時の事情が読み取れて興味深い。1973 年には野辺山宇宙電波観測所はなかったし、三鷹では自動光電子午環もなかったなどが見て取れる。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp